

最高のものを献げる礼拝

創世記二二章

その子に手を下してはならない。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが今、分かった。あなたは自分の息子、自分の独り子を私のために惜しまなかった。(12)

息子イサクをモリヤの山にて犠牲として献げよとの主による理不尽な命令をアブラハムは受けました。本来神が占めるべき位置にイサクが就いていることを神は見抜き、神が第一か、それともイサクが第一かを問われたのです。礼拝とは、自分にとって神こそ最高に価値あるお方であることを告白することであり、自分の持てる最高のものを献げてその信仰を表すことです。あまりにも厳しい神の試みに対して、アブラハムはイサクを献げることによってその信仰を告白しました。アブラハムがイサクに刀を振り下ろそうとした瞬間、主は今日の聖句を語られました。神を第一として選び取ったアブラハムの献身の思いを、神は認められたのです。私たちも毎週の礼拝において、最高の宝を神に献げようではありませんか。神は私たちのために、最高の宝、御子キリストを与えてくださったのですから。